

- 問1 遠洋漁業の生産量が、1970年代から大きく減り続けている主な理由は何ですか。
- 問2 農家の人々が集まって、農業のやり方を教え合ったり、農作物をまとめて売ったりする組織のことを何といますか。
- 問3 漁港の近くに建てられている、水揚げされた魚を競りにかけるための施設を何といますか。
- 問4 海の中に「いけす」などの施設を作り、魚や海そうを人の手で管理して育てる漁業のことを何といますか。
- 問5 林業において、木と木の間隔を広げて日光が地面まで届くようにし、木の成長を助けるための作業を何といますか。
- 問6 農家が「産地直送」でお客さんに商品を届けることで、どのような良いことがありますか。
- 問7 暖流や寒流が近くを流れ、海そうやプランクトンが多く、よい漁場となっている浅い海底のことを何といますか。
- 問8 群馬県や長野県の高原地域で、夏から秋にかけてキャベツやレタスをたくさん出荷しているのは、なぜですか。
- 問9 栽培漁業において、わざわざ稚魚を育ててから自然の中へ「放流」するのはなぜですか。
- 問10 地産地消を行うことで、どのような良い効果がありますか。
- 問11 人工的に育てた稚魚を、ある程度の大きさになるまで守ってから海や川に放し、自然の中で成長させてからとる漁業のことを何といますか。
- 問12 「地産地消（ちさんちしょう）」とは、どのようなことですか。
- 問13 昔と比べて魚の生産量が減っている中で、養殖漁業がさかんに行われるようになった一番の理由は何ですか。
- 問14 暖流と寒流がぶつかり、よい漁場となっているところを何といますか。
- 問15 農家が収穫したお米を、市場などを通さずに消費者のもとへ直接送る販売方法を何といますか。
- 問16 魚市場で行われる「せり」には、どのような役割がありますか。
- 問17 農薬や化学肥料にたよらないで行う栽培方法を何といますか。
- 問18 国や自治体が、魚の量や期間を制限するような「漁獲規制」を行う一番の目的は何ですか。
- 問19 牛やぶた、にわとりなどを飼って、肉や牛乳、卵などを生産する仕事を何といますか。

答え合わせ・解説 No.4

問1	答え 排他的経済水域の取り決めなどができたため。	遠洋漁業は、排他的経済水域の取り決めなどができたことにより、遠くの海で自由に漁ができなくなったため、1970年代から生産量が大きく減り続けています。
問2	答え 農業協同組合	農業協同組合（JA）は、農家同士が協力して農業経営を良くしていくための組織です。共同で肥料などの材料を買ったり、育てた作物を販売したりすることで、個人の農家だけでは難しい活動を支え、地域の農業全体を発展させる役割を担っています。
問3	答え 魚市場	獲れたばかりの魚が集められ、値段を決める「競り（せり）」が行われる場所のことです。ここで決まった魚が、日本各地のスーパーやお店へ運ばれていきます。
問4	答え 養殖漁業	海の中にいけすなどの施設を設けて、魚や海そうを計画的に育てる方法を養殖漁業と呼びます。栽培漁業は、卵からかえした稚魚を育ててから海に放す漁業のことなので、施設で最後まで育てる養殖漁業とは区別しましょう。
問5	答え 間伐	森の木々が育つと、木どうしが混み合って日光が当たりにくくなります。そこで、あえて一部の木を切り倒して間隔を広げる「間伐」を行うことで、残った木に十分な日光と栄養がいきわたり、丈夫に育つようになります。
問6	答え 中間にかかる費用をへらして新鮮なものを届けられる	産地直送の大きな特徴は、市場や卸売業者という「中間」のステップを省くことです。これにより、輸送にかかる日数が短くなって新鮮なものが届くだけでなく、中間でかかる余計なコストを抑え、農家にも消費者にも適正な価格で取引ができるようになります。
問7	答え 大陸だな	暖流や寒流が近くを流れ、海そうやプランクトンが多くてよい漁場となっている浅い海底を「大陸だな」といいます。
問8	答え すずしい気候を好む野菜を、夏に育てることができるから	平地では夏に気温が高くなりすぎて、レタスなどのすずしい気候を好む野菜はうまく育ちません。そこで、夏でもすずしい高原地域を利用することで、夏の時期に新鮮な野菜を全国へ届けることができます。
問9	答え 魚が小さいうちに食べられないように守り、漁業資源を増やすため	稚魚の時期は他の魚に食べられやすく、自然のままでは生き残る数が少ないことがあります。そのため、施設で安全に大きく育ててから放流することで、海や川にいる魚の数を効率よく増やし、安定して漁獲できるようにしています。
問10	答え 農作物を運ぶトラックの燃料を減らし、環境を守ることができる	地元で生産されたものを地元で消費することで、遠くまで運ぶ必要がなくなります。これにより、トラックなどが排出する二酸化炭素を減らせるため、地球環境を守ることにつながります。また、地域の農家が元気になり、地域の産業が活性化するという良さもあります。
問11	答え 栽培漁業	栽培漁業は、稚魚を放流して自然の海や川で育てる手法です。これに対して「養殖漁業」は、いけすなどの施設の中でえさを与え、完全に人の手で管理して育てるといった違いがあります。
問12	答え 地元でとれた農産物を、その地域で消費すること	地産地消は、自分たちが住んでいる地域でとれた食べ物を、その地域の中で食べることを指します。輸送する距離が短くなるため、新鮮なものを食べられるだけでなく、運ぶときのエネルギーを減らせるという環境にやさしいメリットもあります。
問13	答え 魚を計画的に育てて、安定してとどけるため	とる漁業だけでは魚の数が足りなくなってしまうこともあるため、施設を利用して自分たちで計画的に育てることで、いつでも安心して魚を食べられるようにするのが養殖漁業の大切な役割です。
問14	答え 潮目	あたたかい海流（暖流）と冷たい海流（寒流）がぶつかり、よい漁場となっている場所を「潮目」といいます。
問15	答え 産地直送	生産者が育てた作物を、市場や問屋を通さずに消費者に直接届ける仕組みを「産地直送」といいます。間にはさまる業者を減らすことで、新鮮な状態のまま消費者に届けたり、生産者の顔が見えて安心感を持ってもらえたりするなどの良い点があります。
問16	答え 買い手と値段を決めること	せりは、漁業者が持ってきた魚に対して、買い手が希望する値段を出し合い、最終的に誰がいくらで買うかを決める仕組みです。この仕組みがあるおかげで、魚の値段が公正に決まり、スムーズに各地へ運ばれていくことができます。
問17	答え 有機栽培	農薬や化学肥料にたよらないで行う栽培方法を有機栽培といえます。
問18	答え 将来にわたって魚をとり続けるため	一度にたくさんの魚をとってしまうと、魚が十分に育ったり増えたりする前にいなくなってしまうので、将来もずっと安定して魚をとれるように、今とる量を調整して、海にいる魚の数を守ることがこの取り組みの大切な理由です。
問19	答え 畜産	牛やぶた、にわとりなどの家畜を飼育して、肉や牛乳、卵などを生産する仕事を畜産といえます。